

2020年度 健康科学大学卒業生の在籍する企業のニーズ調査結果集計

調査概要

1. 目的

本学卒業生の在籍する企業(病院・福祉施設等)から忌憚のない意見をうかがうことで、企業の求める人材像を把握し、本学の教育指導及び学生支援などの見直し・改善などに活用するため

2. 対象

過去3年間(2017年度～2019年度)の本学卒業生が卒業時に就職した病院・施設282施設
(一般企業を含む)

3. 実施・回収期限

実施日 : 2020年9月2日

回収期限 : 2020年9月30日

4. 活用方法

本学卒業生の在籍する企業のニーズ調査結果報告書として取りまとめ、大学運営に活用するとともにホームページ等で公表する。

5. 配布件数

282件配布、125件回収(回収率44%)

6. 変更点

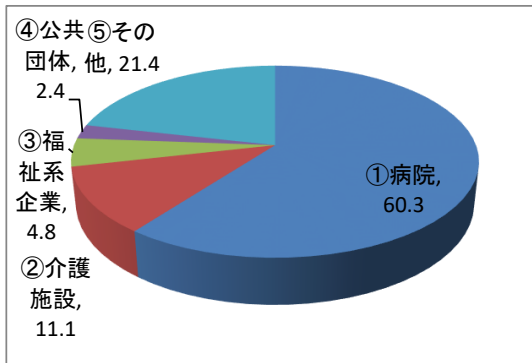
例年8月上旬に健康科学部にて行われる就職説明会時に来場した医療・福祉関連施設に調査を依頼してきたが、今年度から看護学部が開学4年目を迎え卒業生を輩出したこと、また調査依頼先に関しては過去3年間の卒業生の就職先に変更したことで、問1の主たる業種の比率が代わるものと予想される。

□基礎情報

問1 貴社・貴団体名をご記入ください。《省略》

問2 貴社・貴団体の主たる業種について、該当する番号を1つ選んで回答欄に記入してください。

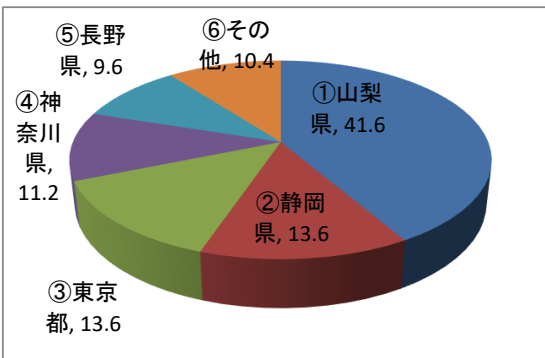
	回答数	2020年度(%)	2019年度(%)
①病院	76	60.3	64.0
②介護施設	14	11.1	22.0
③福祉系企業	6	4.8	6.0
④公共団体	3	2.4	0.0
⑤その他	27	21.4	8.0
合計	126	100.0	100.0



調査依頼先の変更を行ったことにより、公共団体及びその他(一般企業等)からの回答数が上昇した。調査依頼先及び依頼方法を変更したため、コロナ禍におけるオンライン就職説明会を行う間は、医療・福祉施設から約70%、その他の施設で約30%程度の回答が予想される。

問3 貴社・貴団体の本社等の所在地について、該当する番号を1つ選んで回答欄に記入してください。

	回答数	2020年度(%)	2019年度(%)
①山梨県	52	41.6	44.0
②静岡県	17	13.6	12.0
③東京都	17	13.6	10.0
④神奈川県	14	11.2	16.0
⑤長野県	12	9.6	6.0
⑥その他	13	10.4	12.0
合計	125	100.0	100.0

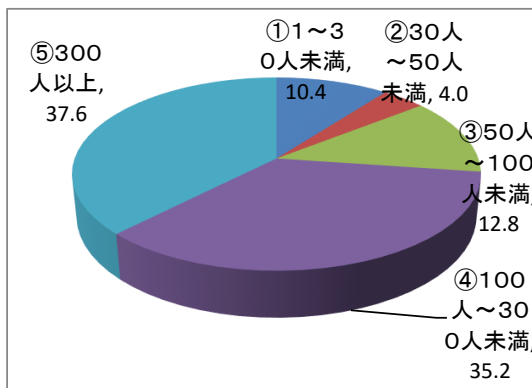


未回答1件

都道府県別では山梨県が多く、静岡県と東京都が同数となり、神奈川県・長野県の順となった。昨年度と調査依頼先を変更した影響は少なかった。

問4 正規雇用者数について、該当する番号を1つ選んで回答欄に記入してください。

	回答数	2020年度(%)	2019年度(%)
①1~30人未満	13	10.4	2.0
②30人~50人未満	5	4.0	4.0
③50人~100人未満	16	12.8	16.0
④100人~300人未満	44	35.2	36.0
⑤300人以上	47	37.6	42.0
合計	125	100.0	100.0



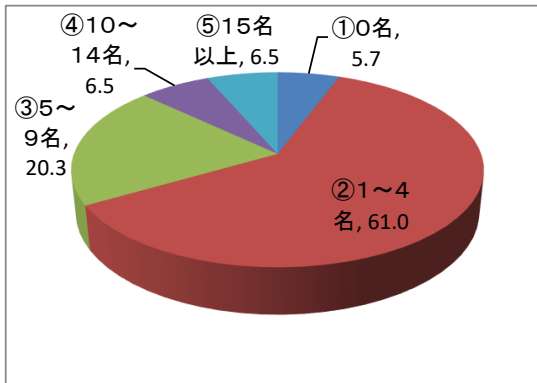
未回答1件

調査依頼先を変更した影響は少なく、昨年度と同様の結果であった。正規雇用者100人以上の比較的大規模の施設に雇用されていることが見て取れる。

問5 貴社・貴団体に勤務する健康科学大学出身者は何人ですか。人数を記入してください。

	回答数	2020年度(%)	2019年度(%)
①0名	7	5.7	8.0
②1~4名	75	61.0	46.0
③5~9名	25	20.3	20.0
④10~14名	8	6.5	14.0
⑤15名以上	8	6.5	12.0
合計	123	100.0	100.0

未回答3件



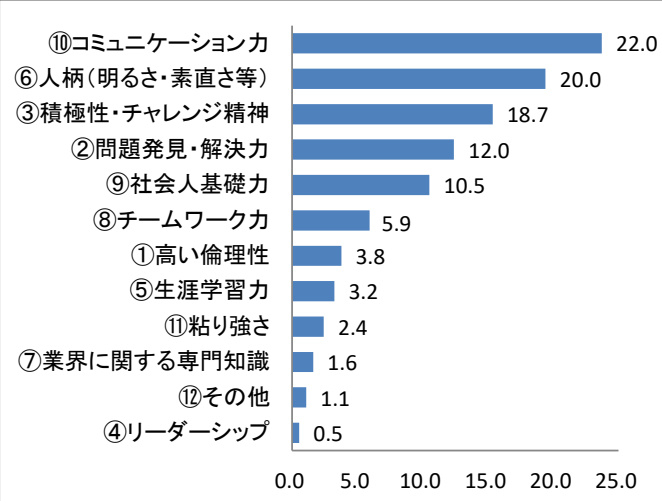
調査依頼先を変更したことにより、在籍者10名以上の施設回答数は昨年度と比べ半減したが(26%⇒13%)、今後は開学年数が上がることにより再上昇するものと考えられる。また、在籍者なし(0名)と回答した7施設については、転職をして現在卒業生が在籍していない施設と考えられる。

□卒業生の在籍する企業のニーズについて

問6 社会に出て活躍するために必要だと考える能力要素はなんだと思いますか。上位3つを選んで回答欄に記入してください。

	回答数	2020年度(%)	2019年度(%)
⑩コミュニケーション力	88	23.7	22.0
⑥人柄(明るさ・素直さ等)	72	19.4	20.0
③積極性・チャレンジ精神	57	15.4	18.7
②問題発見・解決力	46	12.4	7.3
⑨社会人基礎力	39	10.5	8.0
⑧チームワーク力	22	5.9	12.0
①高い倫理性	14	3.8	1.3
⑤生涯学習力	12	3.2	3.3
⑪粘り強さ	9	2.4	2.7
⑦業界に関する専門知識	6	1.6	3.3
④リーダーシップ	2	0.5	1.3
⑫その他	4	1.1	0.0
合計	371	100.0	100.0

※一部未記入施設、記入件数3件未満あり。

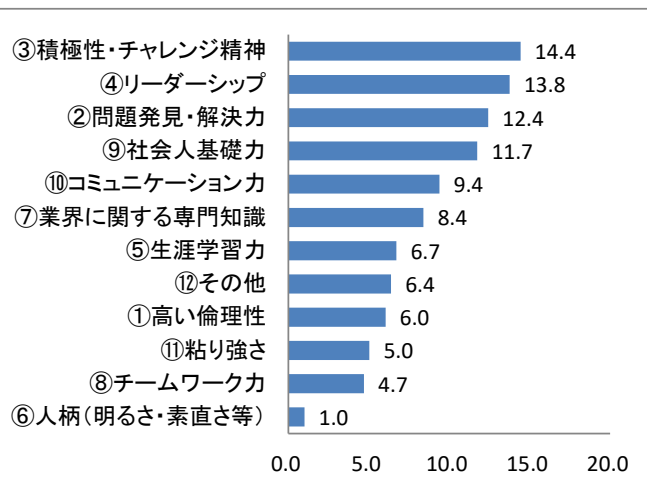


昨年度とほぼ同様の結果となった。しかしながら、チームワーク力が12.0%から5.9%と大きく回答数が減少している。このことを今後はインタビュー等を通じて原因を探っていきたいと考える。

問7 本学卒業生に不足していると思う能力はなんだと思いますか。上位3つを選んで回答欄に記入してください。

	回答数	2020年度(%)	2019年度(%)
③積極性・チャレンジ精神	43	14.4	15.0
④リーダーシップ	41	13.8	20.4
②問題発見・解決力	37	12.4	14.2
⑨社会人基礎力	35	11.7	9.7
⑩コミュニケーション力	28	9.4	6.2
⑦業界に関する専門知識	25	8.4	8.0
⑤生涯学習力	20	6.7	3.5
⑫その他	19	6.4	3.5
①高い倫理性	18	6.0	6.2
⑪粘り強さ	15	5.0	8.0
⑧チームワーク力	14	4.7	3.5
⑥人柄(明るさ・素直さ等)	3	1.0	1.8
合計	298	100.0	100.0

※一部未記入施設、記入件数3件未満あり。



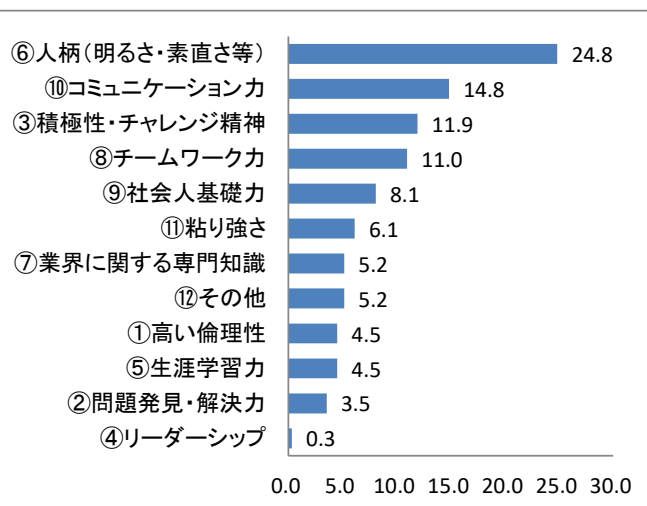
調査依頼先を変更したことにより、リーダーシップの割合が今年度は減少したが(20%⇒13.8%)、昨年度予想したとおり、この数値は将来的には上昇していくものと推測される。

2019年度コメント
昨年度と比較して、④リーダーシップの割合が上昇している。卒業生がリーダーシップを発揮しつつ活躍する年齢に差し掛かっているため、今後はこの項目が上昇していくものと推測される。

問8 本学卒業生が既に身に付けていると思う能力はなんだと思いますか。上位3つを選んで回答欄に記入してください。

	回答数	2020年度(%)	2019年度(%)
⑥人柄(明るさ・素直さ等)	77	24.8	25.0
⑩コミュニケーション力	46	14.8	14.1
③積極性・チャレンジ精神	37	11.9	10.2
⑧チームワーク力	34	11.0	13.3
⑨社会人基礎力	25	8.1	9.4
⑪粘り強さ	19	6.1	5.5
⑦業界に関する専門知識	16	5.2	4.7
⑫その他	16	5.2	3.9
①高い倫理性	14	4.5	3.9
⑤生涯学習力	14	4.5	5.5
②問題発見・解決力	11	3.5	2.3
④リーダーシップ	1	0.3	2.3
合計	310	100.0	100.0

※一部未記入施設、記入件数3件未満あり。

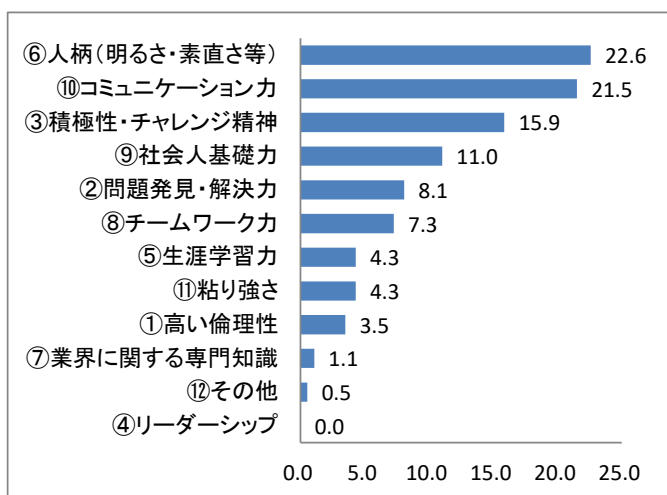


昨年度とほぼ同様の結果となった。人柄(明るさ・素直さ等)、コミュニケーション力、積極性・チャレンジ精神が高い数値を示し、本学卒業生の人柄が高く評価されていることが見てとれる。一方でリーダーシップに関しては昨年度より数値が減少している。リーダーシップの定義が曖昧であり一概に評価することは難しいが、今後の本学の教育において重点を置くべき項目ではないかと推測する。

問9 貴社・貴施設では就職希望者(新卒)にどのような能力が必要と考えますか。上位3つを選んで回答欄に記入してください。

	回答数	2020年度(%)	2019年度(%)
⑥人柄(明るさ・素直さ等)	84	22.6	20.0
⑩コミュニケーション力	80	21.5	20.7
③積極性・チャレンジ精神	59	15.9	18.0
⑨社会人基礎力	41	11.0	10.0
②問題発見・解決力	30	8.1	6.7
⑧チームワーク力	27	7.3	12.7
⑤生涯学習力	16	4.3	2.7
⑪粘り強さ	16	4.3	4.7
①高い倫理性	13	3.5	1.3
⑦業界に関する専門知識	4	1.1	1.3
⑫その他	2	0.5	0.0
④リーダーシップ	0	0.0	2.0
合計	372	100.0	100.0

※一部未記入施設、記入件数3件未満あり。



上位5項目は回答率こそ若干の違いはあったが、ほぼ同様の回答となった。昨年度チームワーク力は6%ほど上昇したが、今年度は5%ほど下降してしまった。この数値が何を表しているのか今後分析していきたいところである。

問10 社会人として必要なことや学生時代に身に付けてほしい能力・経験しておいてほしいことなどありましたら、記入してください。

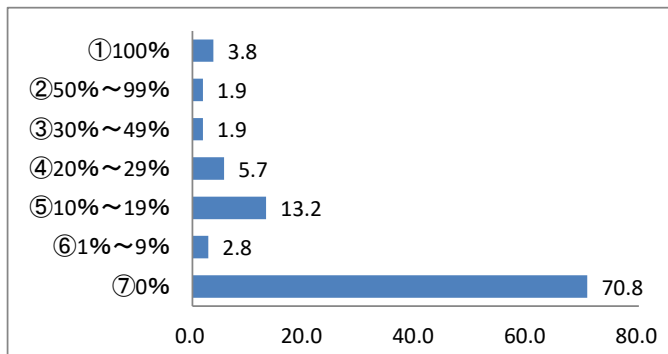
- ・卒業生は真摯で優しく、学園で求める一番大切なことを有しています。就職されたみなさまが福祉人として、成長することをサポートすることが学園の使命のひとつであると考えています。本学園では、就職されるみなさまには学生時代に多くの人と接する経験(アルバイト、部活、ボランティアなど)をされること、そこに学んだこととのつながりを感じることができればと思います。
- ・社会に出て、年齢問わず多くの方に対応するため、できるだけ多くの方に関わる機会を作り、コミュニケーション能力を高めていただきたい。
- ・積極性、周囲に対して変な気を使いすぎている。学生のうちに失敗の経験を積み、それを乗り越えてきた!という自信をつけてほしい。
- ・病院や施設等以外の会社等での就職する学生向けにした講義や講習をもっと手厚くしてほしいです。(例えば会社勤めを想定したPCスキル等)
- ・人として基本的な素養、対人関係のとり方、つきあい方、パソコン操作をきちんと身につけてほしい。
- ・学生時代からPDCAサイクルを意識し、取り組んでいると社会人になったときにとても役立つと思います。また、色々なことに興味を持ち、様々なことにチャレンジできる向上心があればと思います。
- ・学業だけでなく、サークル活動やボランティア活動、アルバイト等様々な活動に挑戦し、色々な人との触れ合い、沢山の価値観に触れて欲しいと思います。
- ・自信のなさ、自己肯定感のなさ、対人の経験のなさ、こういったものは少なからず誰もがもつものではあるので、20代以降社会に出て身につくもので、「今」の自分が完成されたものでないという自覚。これから成長していくものだという意識。
- ・他者の心、痛みが分かること。素直に感謝できること。(セラピストとしては)国試に余裕をもって合格できる学力。
- ・福祉の分野では、対人援助業務が多いため、個の課題を正確に把握し、解決能力が必要とされる。そのため、クライアントや他の職種とのコミュニケーション力も求められる。また、課題解決に向けてチームアプローチが必要な場合もあるため、チームワーク力も必要である。福祉の分野で学ぶ学生は、在学中に実習等で対人援助の事例等に実際に関わり、他職種が連携し、チームで対応することが重要であることを理解しておいてもらいたい。
- ・医療人になるという自覚で学ぶ事をリハサービス業として明るく元気な態度で人と接する事を4年間で身に付けて欲しいです。例え、明るく元気が苦手な事があっても仕事の顔としてできるようになる必要があります。
- ・状況などによる相手の気持ちを測ることができるような訓練。友達や仲間と活動すること。頑張ることができる力。何かを最後までやり通すこと。自分が正しいと思うことを一生懸命話せること。

<p>・アルバイト経験があることを望みます。医療や学校とも違う社会経験をすることで、様々な世界やそこでの常識、ならわしがあることを知っていただきたいです。多角的な、また柔軟な受け止め方ができる人材を希望しています。</p>
<p>・社会人としてあいさつや言葉遣い、報告、相談、連絡ができることは最低限必要と感じます。また、報告書等の業務もあるため、文章力も求められます。専門知識は、就職後も努力次第で増やすことはできます。学生時代には色々な年齢層との関わりを持ち、対外的な活動を通して豊かな人間性を培うことが経験できると良いと思います。</p>
<p>・失敗しないように日々を送るのではなく、失敗を糧に前進することの方が重要だと理解して欲しいです。</p>
<p>・目上の人や高齢者の方と会話する機会や体に触れる頻度を増やし、コミュニケーション能力や他者との関わりを少しでも慣れて欲しいと思います。</p>
<p>・実技練習を同学年・友人だけでなく先輩や先生を相手にして練習する頻度を増やして欲しいと思います。</p>
<p>・多様性に耐えられる人柄。明るくポジティブにとらえる力。</p>
<p>・とりえず「やる気」があれば後は会社が作りあげていくものと考えます。</p>
<p>・多重課題への取組み時、自身でどうにかできるのか、周囲のサポートがどの程度必要なのか等、経験からわかったことは自分で伝えられるようにしてほしいです。ストレスコーピングについての学びや、自己のコントロールについて取り組めると良いです。</p>
<p>・人の話を聞くこと、素直なことは大事だと思います。学生の時に経験することは、全て学びになると思います。学生間のコミュニケーション遊びの他、教員とコミュニケーションをとることも大事ですし、一人で何かうちこむことも見つけられるといいと思います。</p>
<p>・多くの社会人や子供、高齢者などと接する機会を設けること。ボランティア活動や企業や地元の人たちとの接点、交流などをもち、社会とつながる時間を多くもつことが必要。</p>
<p>・知識・技術に対して課題としている学生・スタッフは多くいると思います。何年経ってもつきまとう物だと思います。何かを学ぼうとする、受け入れる謙虚な姿勢が重要かと思います。</p>
<p>・何か悩んだときに相談できる人(家族・仲間・先生)を見つけてほしい。</p>
<p>・社会人になると様々な人の意見を「聞く力」が求められます。自分とは異なる考えを素直に受け止め、自己の成長につながるためにも学生時代からアルバイトやボランティアを通し、積極的に幅広い年齢の方と交流してみてください。</p>
<p>・専門職であるが企業・病院等組織の中で働くという意識が少しでも理解できる機会であればと思います。</p>

問11 昨今、若い世代の3年以内離職率が問題になっています。貴社・貴施設において、健康科学大学の卒業生の3年以内の離職率は何%程度か記入してください。

	回答数	2020年度(%)	2019年度(%)
①100%	4	3.8	0.0
②50%～99%	2	1.9	2.4
③30%～49%	2	1.9	7.1
④20%～29%	6	5.7	7.1
⑤10%～19%	14	13.2	7.1
⑥1%～9%	3	2.8	4.8
⑦0%	75	70.8	71.4
合計	106	100.0	100.0

※未記入19施設



70%弱の施設が離職率0%と回答しており、本学の卒業生は就職先に概ね定着していることが伺われる。

自由記入欄

ご意見・ご要望などがある場合は記入してください。

・御校生徒に関しましては2名とも弊社にて大変貴重な戦力となっています。ありがとうございます。これは御校の生徒ではありませんが、所謂「ゆとり世代」の学生が挨拶などもできない、社会人になって困っているという話を良く耳にします。社会に羽ばたく前に是非教育をお願いします。

・貴大学の当院入職者は、皆素直で明るくて性格の良い方々です。知識は国試合格レベルを求めるのは当然ですが、資質を重視します。大学入試でも資質を求めて入学させてやらなければ性格(資質)を求めることは難しいと思います。

・現在3年目となるPTは、就職当初は精神的に不安定になることもありましたが、今となっては科内はもちろん他職種からも信頼を得ています。PTとしての技術は不十分ではありますが、コツコツと頑張っています。施設で働きたいと強い希望を持って就職したので、今後の成長が楽しみです。最近の若い世代は打たれ弱いので、こちらの対応も常に気を付けています。

・多数のPT/OT/ST養成校からスタッフを採用しておりますが、こういった調査を現場にされているのは貴校だけです。大変熱心な取り組みであると敬服申し上げます。貴校の卒業生は今のところ元気に働いておられますので大変助かっています。埼玉に就職を考える学生さんは多くないようですが、これからご縁をつないでいけたら幸いです。

・看護職は卒後指導研修を通して専門職としてのスキルを身につけていくわけですが、国家試験に合格すると看護師として何でもできる様な感覚を持ち合わせてしまうことがあると感じます。卒後教育の重要性を深く感じ、個に合わせてくり返しの指導が必要であると覆います。

・貴学の履修科目と弊組合の職種に相違があるかもしれませんが、地域の為に、人の為に貢献したい意欲のある方は遠慮なく応募してください。卒業生も頑張っております。

・当法人に就職している2名はそれぞれ個性もありますが頑張ってくれていると思います。当法人も来年度よりOJTの強化、人材育成に力を入れていく予定です。今後ともよろしく願いいたします。

(原文)

就職先企業に対する調査結果

本学卒業生に不足していると思われる能力としては、「リーダーシップ」「積極性・チャレンジ精神」「問題発見・解決力」の3つで約4割となっている。一方で本学学生が身に付けていると思う能力については、「人柄(明るさ・素直さ等)」「コミュニケーション力」「チームワーク力」の3つで約6割(59.9%)となっている。自由記述欄からもうかがえるが、学生時代に多くのことを学び、体験し、様々なことにチャレンジし、経験値を豊かにすること、そのような経験が失敗を恐れず進む力となりえたと感じた。また、聞く力、伝える力を身につけ、自分の言いたいことや相手の言いたいことなどを的確に把握できる能力が備わるよう大学教育の一環として学ばせていければと痛感した。昨年度にはなかった意見として、パソコンスキルを身に付けてほしい、という意見が散見された。若年層はスマホ世代で、パソコンを利用していないのではと推測し、一定のパソコンスキルを身に付けられるよう大学として講義科目の充実を検討したい。

その他の意見

その他に出された意見としては、本学の卒業生が各施設等で活躍する様子を伝えてくれる意見が複数あったことは大変ありがたい意見であった。一方で今年度は調査対象を過去3年間の間に卒業生が就職した企業に送付するよう変更したため、3年以内退職率100%と回答した企業が4施設あったことは特筆する要素であった。なぜ短期間で退職してしまったかなど可能な限り理由を聞き、ミスマッチはどうして起きたかなどを検証していきたい。大学としてこの貴重な意見に奢ることなくさらなる努力をし、本学学生が社会に出て一層活躍できるように教育・指導していくことが重要となるであろう。